

機械器具 22 検眼用器具
一般医療機器 両眼視機能検査装置（JMDN コード 37071000）

ステレオテスト

【禁忌・禁止】

- ・ 偏光メガネをサングラスとして使用しないこと。
[眼に障害の恐れがある]

【形状・構造及び原理等】

*＜種類＞

- (1) ステレオ フライテスト
- (2) バタフライ ステレオテスト
- (3) ランドット ステレオテスト
- (4) ランドット プレスクール ステレオアキュイティ
テスト
- (5) ランダムドット E ステレオテスト
- (6) ディスタンス ランドット ステレオテスト
- (7) 偏光メガネ（標準型、子供用、小児用、クリップ型）

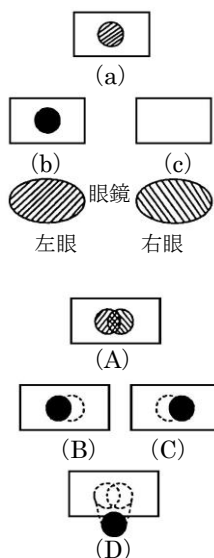
<構成>

各ステレオテストの基本構成は以下の通りである。

- ・ ステレオテスト
- ・ 偏光メガネ
- ・ 取扱説明書

<原理>

中心に 135° の偏光板の入った視標 (a) を見ると、同じ 135° の偏光板を用いた眼鏡の左眼は内円 (b) が見えるが、右眼は見えない (c)。さらに、視標 (A) のように偏光板を組み合わせると、左眼は視標の左側に円 (B) が、右眼は視標の右側に円 (C) が見える。



それを両眼で同時に見ると、両眼の焦点が手前に結ばれ、円 (D) が浮いて見える。視標 (A) の左右円のズレの大きなものは大きく、小さなものは小さく浮いて見える。また、(A) の内円を左右入れ替えると沈んで見える。

【使用目的又は効果】

被検者に偏光メガネを装着させ、一定の距離から図形等が浮いて見えるか（又は沈んで見えるか）を調べることにより、立体視機能を検査してスクリーニングする。

【使用方法等】

被検者に付属の偏光メガネを装着させ、検査板の指標を呈示し、図形（絵、図等）が浮き上がって（又は沈んで）見えるかを尋ね、立体視機能を検査する。
詳細は各ステレオテストの取扱説明書を参照すること。

【使用上の注意】

<重要な基本的注意>

本品の使用者は、医師、医師の指示を受けた人及び視能訓練士だけに限定すること。本器の使用は、如何なる場合も医師及び視能訓練士の指示に基づいて行うこと。

【保管方法及び有効期間等】

常温に保管すること。但し、 40°C 以上の高温、 -10°C 以下の低温及び85%以上の湿度は褪色の原因となることがあるので避ける。

*【保守・点検に係る事項】

- (1) 検査面や偏光メガネのレンズには手を触れないこと。
- (2) クリーニング：よごれた場合は、柔らかい布で、シート及びメガネ表面部分の埃ちり等を優しく掃くようにとり除いて下さい。そのまま消毒等を行いますと、表面が傷つくことがあります。
- (3) 消毒：表面部分を消毒用ワイプ（70%イソプロピルアルコール）または70%イソプロピルアルコールを含ませた柔らかく少し湿った糸くずの出ない布で優しく消毒して下さい。消毒、やクリーニング後は直ぐに閉じず、5分ほど十分に乾かして下さい。決して表面に直接アルコールを吹き付けしないで下さい。また溶剤等はご使用しないで下さい。これ以外の洗浄用の液体や溶剤は決して使用しないこと。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者

ジャパン フォーカス株式会社
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-37-18
TEL (03)3815-2611

外国製造業者

Stereo Optical Company, Incorporated
アメリカ

緊急連絡先

ジャパンフォーカス株式会社 TEL (03)3815-2611
株式会社 JFC セールスプラン TEL (03)5684-8531

取扱説明書を必ずご参照ください。